

Q1. 筑波大学の障害学生OBOGとの業務上の関わりについて教えてください。

高齢者や障害者など「要配慮者」の防災安全対策を推進する防災福祉係という部署で、一緒に働いています。Hさんは、要配慮者の防災意識啓発や安全対策を推進するための各種広報物の作成や、防災講和・イベントなどの手法の検討・企画を担当しています。また特技である手話を活用して消防職員を対象とした手話講座の講師や、聴覚障害者を対象としたイベント等でも活躍しています。

大学で培った社会福祉分野の専門的視点、知識を担当業務に反映させるなど、防災安全課期待の若手職員です。

Q2. 障害学生OBOGの就職前後で印象は変化しましたか？

配属されて約2年経ちましたが、日々成長していると感じています。消防署での勤務を経て異動してくる同僚達と比べて、実務の経験や知識がないので苦勞もあると思いますが、我々が全く知らない専門知識や経験を活かし、Hさんにしかできない仕事ができるようになってきたと思います。明るく前向きで活発なところは以前と変わりませんが、仕事に慣れて自信が付き、頼りがいがある一面も見せています。

Q3. 障害学生OBOGと一緒に働いてみての率直な感想をお聞かせください。

我々の部署には現在、大学等で社会福祉に関する最新の専門知識を学んだ職員がおらず、Hさんが身に付けている知識や経験が、業務の推進には大変に役立っています。また、誰も気が付かないことを、障害者の視点で多く指摘できるので、Hさんの意見は欠かせないものになっています。Hさんのお蔭で我々の取組が一層良くなることが、まだまだ沢山あるなど、改めて感じています。

企業等で働いている本学卒業生の声

○企業名

- ①現在の業務内容について
- ②職場環境について(受けている配慮等)
- ③今後の目標

Nさん (2011年卒業, 生命環境科学研究科地球科学専攻, 発達障害)

● Bloomberg L.P. Global Data

① 財務データ部に所属し、日本の上場企業等が発表する決算短信や有価証券報告書といった決算報告書の財務に関する内容を取り扱っています。投資家が各企業の書類を一つ一つ読む手間なしに投資判断ができるように、書類のデータをソフトウェアに入力し反映しています。

② 業務については、一部を除き他のメンバーと同様のものを行っています。2時間毎に机を離れて休憩を必ず取ることで、集中のし過ぎによる頭痛や疲労を軽減しています。仕事の分量の調整し、ひとつひとつの業務に集中できるようにしています。また、基本的に残業なしで勤務することにより、十分な睡眠時間を確保し次の日に疲労を残さないようにしています。

③ 日常の業務をしていく上で、必要な知識は就職してからの2年ほどである程度習得することができましたが、これからも業務の幅を広げていくためにも、また自分自身の自信につなげるためにも勉強して、財務などの関連する資格を取ってきたいと考えています。

Kさん (2017年卒業, 人間総合科学研究科障害科学専攻, 聴覚障害)

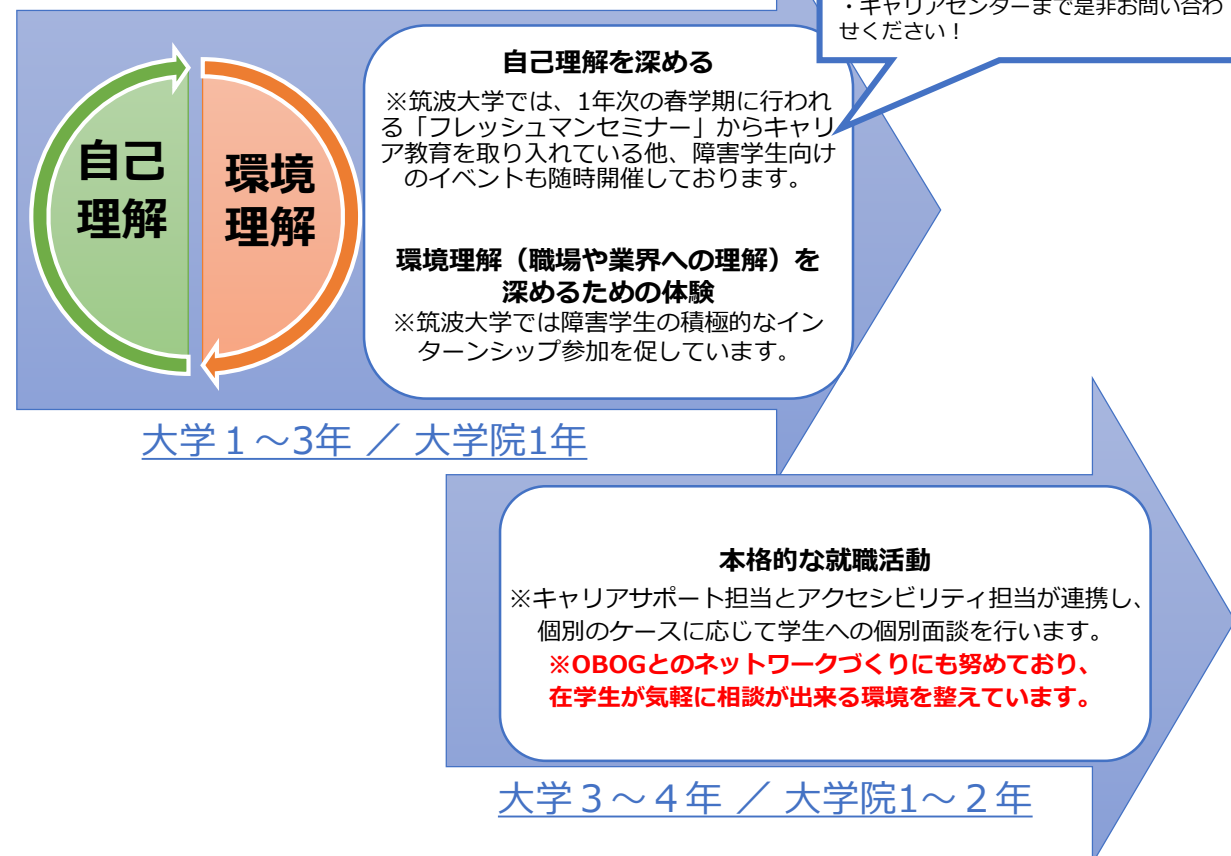
● トランスコスモス株式会社

① 新卒・中途障がい者採用のバックオフィス業務です。主な内容としては、面接関連、結果処理、説明会関連など幅広い業務を対応しています。また、新卒の内定者関連では、SNSやメールによるフォロー、内定者イベントや内定式の企画運営を担当しています。

② 聴覚障がいがあるため、音声情報を補うための情報保障を活用しています。業務上打ち合わせが多いので、リアルタイムで会話しやすい手話通訳を利用することが多いです。また、1対1で会話するときや定例の会議時は音声認識ツール(UDトーク)を用いることもあります。こういった環境があるからこそ、情報保障の整備に注力する必要がなく、自分の力で本来の主業務に専念できていると感じます。

③ 仕事面での目標は、人前で上手くプレゼンできるようになることです。何度か会社説明を担当させていただいておりますが、なかなか慣れないものでやはり緊張します。今後も着実に経験を積み、臨機応変に対応できるようになりたいです。

障害学生が就職に至るまでの流れ



Tさん (2018年卒業, 人文社会科学研究科国際公共政策専攻, 視覚障害)

● 岐阜大学 障害学生支援室

① 日本学術振興会特別研究員のおと、製薬企業に入社し、現在は、岐阜大学で教員として勤務しています。製薬企業では主に、製剤の安全性に関する量的調査を行っていました。現在は、量的・質的両方の方法を用いた教育と研究を行っています。

② 夜盲症がひどいこともあり、製薬企業では、私が使用するすべての場所の照明を点灯していただいていた。また、周囲に街灯のない夜道では、先輩のカバンや肩につかまらせていただき、一緒に歩いてもらいました。現在は、勤務時間を調整できるのですが、それでも夜遅くなり歩行困難な夜道では、教職員や学生さんのカバンや肩につかまらせていただいています。あとは、特に私からお願いしたというよりもむしろ、周囲の方々の想像力や過剰ではない適度な温かい思いやりによって日常を送ることができていると思います。

③ 仕事では、現職である岐阜大学で、ひいては岐阜県で、慢性疾患や障がいのある人々、特別なニーズを必要とする人々の支援を行っていきたいです。プライベートでは、10年以上通っているフジロック・フェスティバルに今後も行き続けることです。

Hさん (2017年卒業, 人間学群障害科学類, 運動・内部障害)

● 東京消防庁

● Q1. 現在の業務内容について

防災福祉係では高齢者や障害者の安全対策に携わっており、その方々の防災意識や防災行動力の向上のための広報活動や、防災訓練の方法の検討などを行っています。また、消防職員への教養の一環として、手話講座や車いすの乗せ方・押し方講座なども行っています。

● Q2. 志望先の決定方法について

就職活動では人を支える仕事と、専門の社会福祉に携われる仕事という2つの軸を基準に志望先を絞っていきました。そのなかで、東京消防庁の就職説明会で消防士の体験エピソードを聴く機会があり、命を守ることを使命として働く人の情熱に触れ、この人たちと一緒に働きたいと強く思いました。

● Q3. 後輩へのメッセージ

多様な学生、多様な生き方を受容する筑波大学という環境は、私に自信と可能性を与えてくれたと思っています。皆さんも、いろんなことに積極的に関わら姿勢を持てば、きっと自然と可能性が広がっていくと思います。